**青字：ゲームフリーク様への回答となります**

**◆各論**

**《リコについて》**

・リコはパルデア出身という設定ですが、物語の最初でわざわざカントーの学園に入学しています。この入学はリコ自身の希望によるものなのでしょうか？もしくは彼女の母親の意思など絡んでいるのでしょうか？

シナリオの中で、「何故はるばるカントーまで来てこの学園に入学したのか」が語られていないために、リコ自身の学園での目標やモチベーション、逆にフリードたちと学園を離れることなったときのリコ自身の気持ち(学園に戻りたいのか？)が見えて来ません。

母親の薦めにより、カントーにあるセキエイ学園に入学しています。そのため、リコ自身は入学に関して「自分の意志で入学したわけではないが、ネガティブな感覚＝強制されたような感覚も持っていない」状況です。

（母親、祖母も同じ学校に通っていたため入学を薦めた、という設定）

リコの気持ちとしては、新しい場所へのワクワク感は抱いていますが、まだ自分のやりたいことや目標が見つかっていないので、このままの学校生活を続けて良いのか、漠然とした悩みを抱いています。ゆえに学校生活への未練はそこまで感じていない、という理解です。

そんなリコが、レジェンド団とともに旅立つことに対して、はじめは戸惑いつつも、新しい出会いだったり、コダイガメを助けたいという目的ができたりすることで、徐々に前向きになっていく様子を描いていきます。

・リコは祖母から預かったというペンダントを持っていますが、彼女と母親・祖母との関係性、ペンダントに対する彼女の意思が何も見えて来ません。先述のカントーにある学園への入学動機の話とも繋がりますが、大切なペンダントを持ったまま出身地から遠く離れた学園に娘/孫が入学することについて、彼女の母や祖母はどう考えているのか？リコ自身もそれをどう受け止めているのか？がこのエピソードの中で少しでも垣間見えませんと、最終的にフリードに連れられて学園の外へ出ることを決意する彼女の動機も、視聴者には見えてこないのではないでしょうか。

祖母、母親ともにペンダントにまつわる秘密や、ルシアスの伝説については把握しておらず、「お守り替わりの大切なペンダント」程度の認識でいます。そのため、ペンダントをリコに預けたタイミングでは、彼女の身に危険が及ぶ可能性がある、という考えにも至っていません。

また、リコも同様の認識なので、祖母から譲り受けたペンダントを大切に扱っています。

#1ではフリードがボディーガードとして登場しますが、こちらはエクスプローラーズがポケモン博士であるリコの母親にアプローチ→ペンダントにまつわる秘密を知った母親が、リコの身を案じて依頼した、という流れになっています。（#12で明かされていく予定です）

※お送りしている第5稿では「おばあちゃんが依頼した」となっていますが、修正予定です

・寮生活をしている設定なので、その生活描写の中でも本来は彼女自身の基本的な個性が見えてよいのではと感じています。あまりにも寮生活を送る女生徒として「特別なペンダントを持っている」ということ以外に他の生徒との見え方の差が無く、本作の主人公にもかかわらず、ある種「一般的な模範生徒」過ぎて視聴者が感情移入しにくいイメージがあります。

　(例えば：大食い/部屋をちらかす/運動が苦手など/においに敏感など、10代らしい愛嬌のある個性が垣間見えてよいのでは、ということです)

リコに関しましては、自分の気持ちをうまく表現できない子、周りの目を気にしてしまう子としてキャラ付けをしております。自分以外のことに共感してしまい、自分をうまく表現できない性格です。（心の中のリアクションは大きいです。）

普通の学校生活を送ろうとしている中でペンダントを持っていることで事件に出くわしてしまういわゆる巻き込まれ型の構造です。最初は受動的、消極的に見えるかもしれませんが事件をきっかけに、自分のやりたいことや意見を素直に言える子に変わっていく物語にしていきます。

**《ニャオハとの関係性について》**

・ニャオハとの出会いに、あまりドラマが感じられず、「面談の結果相棒に選ばれた」わりに関係がうまくいかないことが疑問であるばかりで、物語のフックとしていまいち上手く機能していないように感じます。

・(サトピカとの比較はあまりしたくないのですが)サトシとピカチュウも、ゲームの主人公と比較すると「普通ではない」出会い方をしており、出会いから相棒になるまでの流れには、今でも名エピソードとして語られるドラマが存在します。

またゲームでも、「最初の相棒を選ぶ」という行動は非常に重要なイベントですので、現状ですと「面談の結果選ばれた」以上の出会いの理由が無く、ともすると技を出すことすらままならない理由も視聴者目線で理解が難しく感じます。

　(太陽光が無い夜に特訓をしていたため、というお話もございましたが、ゲームでは夜でも技はでますので改めてシナリオ拝見していますと説得力がありません。)

・例えば、「面接の結果相棒に選ばれた」ことの裏には、実は誰か(フリード？母？祖母？)の思惑が働いていた、などといったことを想定されており、のちにそれが遠くない未来で回収されるのであればそれはそれでよいのですが、その事実の断片だけでも最初のエピソードで垣間見えませんと、リコがニャオハとの関係を、相棒として特別深めていくこと理由が無く、今後も関係性や相棒としての存在感が薄くなってしまうのではないか、と危惧しております。

こちらに関しましても各話数で積んでいく課題かとは思います。

最初のピークとして3話でニャオハのために動くリコ。それに応えるニャオハのエピソードで距離の縮まっていく関係を描きます。最初はすれ違う2人ですが、この先にもバトルや旅の中の生活を通じて、お互いを思う心を表現する想定です。

リコとニャオハについて、面接で出会い、その後ふたりの仲が深まっていく様子を描く現行案にするか、そもそもの出会い方から変えるべきか、お打ち合わせの場でもご意見うかがえますと幸いです。

（現場では各地方の初期3が全員集まった状態で、お見合い結婚のようにマッチングさせる姿を見せる、という案もでておりました）

・ライバルが部屋にやってきた際、ニャオハの様子に違和感を覚えてリコが逃げ出す、という描写についても、そこまでにリコとニャオハの関係性が特別深まったような描写が無い中ですので、それだけでリコがニャオハの様子をから危機を察知し脱出を試みる、という描写が無理やりなように感じております。

普段は気まぐれなニャオハが、この時だけは明確な敵意を示しているので、いつもと違う様子にリコが敏感に反応したものという理解です。

**《学園と周囲の主要人物について》**

・冒頭の総論でも記載しておりますが、リコが学生として学園に通うシーンはこの2話のみになりますでしょうか。その場合、わざわざカントーの学園に入学する理由が明らかでない今、「Titanが学園ものなのでスタートを学園にした」という以外の舞台設定が見えず、都合上そのようになっているだけ、という印象が拭えませんでした。

・せっかく学生というアイデンティティを持たせていますので、もしリコ自身が学生であることを望むのであれば、時々で構いませんので、今後の描写として「オンラインでも構わないので授業を受ける」「学園に戻るシーンがある」「アンだけでなく、学園で出会った様々な人々が物語に絡んでくる」などといった形でリコの学生としての一面を見せられるようにしたり、物語の中で学園が一定の存在感を示す形にしていただきたいと考えております。

今後のエピソードでオンライン授業を受けるリコ（とレイ）の様子や、同級生であるアンとの交流を描いていく想定です。

・フリード一団とライバル率いる敵組織が、最初から学園にリコを探しに来ている様子が描かれていますが、裏の設定として、何故彼らはそこにリコ(ペンダントを持つ子)がいると知ったのでしょうか。

エクスプローラーズがリコの母親と接触した結果、セキエイ学園にいることを知ります。その後、娘の身を案じた母親がフリードにボディーガードを依頼するまでの様子は#12で描かれる予定です。

・ライバルに関してはリコのペンダントに対し「何かある」と気づいているようですが、それが「何か」が心当たりのないまま発された言葉であるように見えるため、何故そこに彼が固執するのか？も視聴者目線で置いて行かれている感覚がございました。

まだペンダントにまつわる秘密をライバルが把握しているわけではありませんが、組織のリーダーであるエルドラが自分に何かを隠していると疑念を抱いたライバルは、エルドラの目的や、ペンダントの謎を探ろうとしていきます。エルドラとライバルの関係性については、今後のエピソードで語られていく予定です。

・フリードに関しても、のちに「リコの母に頼まれて迎えに来ていた」というお話でしたが、これも、前述の学園入学動機の部分やリコと母親との関係値が見えていない部分と相まって、中途半端な探し方なように見えてしまっています。

その結果、フリードとライバルは「リコの目の前に急に現れた」という意味では同じ条件にもかかわらず、祖母の名前を出したライバルでは無く、唐突に連れ出したフリードの方を信じてついていく理由が視聴者としては理解できませんでした。

#1ラストで落ちていくリコのことを、リザードンが助けてくれたことをきっかけにフリードと出会いますが、その後連れてこられたレジェンド団の船内でフリードがポケモンたちと楽しそうに過ごす様子を見て信頼する、という流れにしております。

（初めから信頼する理由を提示するのではなく、リコ自身が周りの様子をみて判断するような見せ方にしています）

・これまでに記載した各種懸念を総合して、弊社内からは、ジャストアイデアではありますが、例えば「リコと祖母しか知り得ないはずのことをフリードがリコに伝える」「フリード一団は一時的に、リコの母からの依頼で教師役/学生役等として学園に潜入してこっそり護衛しており、既にリコとはある程度の面識がある」「ニャオハをリコの相棒に選んだのは、学園にツテのあるフリードだった(ニャオハはフリードに既に懐いている等)」など、「リコ自身が特別な存在である」という事が視聴者に伝わるようなワンアイディアとともに、周囲の環境やキャラクターについても見せ方をご調整いただくことが必要なのではないか、と弊社内では意見が挙がっております。

**《レジェンズ団の飛行艇関連について》**

・飛行艇の動力は何をご想定されていますでしょうか。(浮力・推進力は何で得ているかの具体的なイメージをお伺いしたいです。)もし石炭とお考えの場合、Orionの際にゲーム内で「石炭に変わるポケモン世界での資源」として別の素材を設定しておりますので、そちらに差し替えて今後はご検討をいただきたいです。(Orionでのそれらに関する資料がご入用の場合はご提供も可能です。)

火力により飛行する仕組みです。（劇中でくわしく触れる予定はありませんが、蒸気機関や熱気球など、視聴者が動力として紐づけやすいようにしています）

・飛空艇を動かすため、現状の描写では全ポケモンが動力室に集結するような演出になっておりますが、このままではポケモンがただの動力源にされているように感じてしまいます。

また、何かを燃やすだけ、電力を提供するだけ、ではポケモンらしさがありませんので、

「ポケモンと一緒だからこそできること」で飛空艇を動かしているような演出をご設定いただきたいと考えております。

(例えば：飛空艇の向きは緊急時はリザードンが引っ張って変える等非現実的なことでも、ある程度はポケモン世界の演出としてはよいと考えております。)

もともとポケモンの力を借りずとも飛べる飛行艇なので、燃料として使用する描写では無く、より早く飛びたいときに火力アップのため炎ポケモンの力を借りる、ノズパスに方角を教えてもらう、ヨルノズクに行き先の様子を見てもらう、といったシーンを描いています。